

Novell

www.novell.com

N

Novell®

法令通知

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容または本書を使用した結果について、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また、本書の商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる黙示の保証も否認し、排除します。また、本書の内容は予告なく変更されることがあります。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、すべてのソフトウェアについて、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また、ソフトウェアの商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる黙示の保証も否認し、排除します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。

本製品を輸出または再輸出する場合は、米国の輸出関連法規および居住国の関連法規の適用を受けます。

Copyright © 2004 Novell, Inc. All rights reserved. 本書の一部または全体を無断で複写・転載することは、その形態を問わず禁じます。

米国特許番号 5,608,903; 5,671,414; 5,758,344; 5,832,275; 5,832,483; 5,832,487; 5,870,739; 5,873,079; 5,878,415; 5,884,304; 5,910,803; 5,933,503; 5,933,826; 5,946,467; 5,956,718; 5,963,938; 6,052,724; 6,065,017; 6,067,093; 6,115,039; 6,167,393; 6,286,010; 6,308,181; 6,345,266; 6,424,976; 6,516,325; 6,519,610; 6,532,451; 6,539,381; 6,578,035; 6,615,350. 特許出願中

Novell, Inc.
1800 South Novell Place
Provo, UT 84606
U.S.A.

www.novell.com

Novell Nterprise Linux Services Readme

2004 年 2 月 6 日

オンラインドキュメント：この製品および他の Novell 製品に関するオンラインマニュアルにアクセスしたり更新を行うには、www.novell.com/documentation を参照してください。

Novell の商標

ConsoleOne は、米国ならびに他の国における米国 Novell, Inc. の登録商標です。

DirXML は、米国ならびに他の国における米国 Novell, Inc. の登録商標です。

eDirectory は、米国 Novell, Inc. の商標です。

GroupWise は、米国ならびに他の国における米国 Novell, Inc. の登録商標です。

iChain は、米国ならびに他の国における米国 Novell, Inc. の登録商標です。

NetMail は、米国 Novell, Inc. の商標です。

NetWare は、米国ならびに他の国における米国 Novell, Inc. の登録商標です。

NetWare Core Protocol および NCP は、米国 Novell, inc. の商標です。

Novell は、米国ならびに他の国における米国 Novell, Inc. の登録商標です。

Novell Certificate Server は、米国 Novell, Inc. の商標です。

Novell Client は、米国 Novell, Inc. の商標です。

Novell iFolder は、米国ならびに他の国における米国 Novell, Inc. の登録商標です。

NSure は、米国 Novell, Inc. の商標です。

Nterprise は、米国 Novell, Inc. の商標です。

Red Carpet は、米国 Novell, Inc. の商標です。

Red Carpet Enterprise は、米国 Novell, Inc. の商標です。

サードパーティの商標

サードパーティ各社の商標は、所有者であるそれぞれの会社に所属します。

この製品には、RSA Security, Inc. からライセンスを受けたコードが含まれています。IBM からライセンスを受けた部分の一部は、Web サイト (<http://oss.software.ibm.com/icu4j/>) で入手できます。

この製品には、Apache や Tomcat など、Apache のライセンスに基づいてライセンスを受けた素材が含まれています。

目次

本書について	9
1 Nterprise Linux Services に関する問題と注意事項	11
最新情報の入手	11
テストについて	12
オープンソースコンポーネントのソースファイル	12
Linux サーバの必要要件を満たすことが必要	12
サーバには静的な IP アドレスが必要	12
/etc/hosts ファイルにサーバのエントリが必要	12
インストール	12
既知の問題	12
注意事項	15
インストール後	16
一般的な問題	16
SUSE LINUX 上で NNLS のマニュアルページが機能しない	16
/opt/novell/man の NNLS マニュアルページにアクセスできない	17
「oneNet」で終わる URL を入力するとサーバの内部エラーが発生する	17
一般的な注意事項	17
eDirectory の認証設定のデフォルトは単一サーバ	17
2 Apache Web サーバ	19
既知の問題	19
Apache プロセスが起動しない	19
3 DirXML スタータパック	21
注意事項	21
Novell Client 4.83 SP1 以降が必要	21
4 Novell eDirectory 8.7.3	23
NMAS の問題	23
Certificate Server の問題	23
NICI の問題	23
SLP の設定	23
Novell eDirectory ツリーのマージ	24
iManager でのユーザオブジェクトの作成とパーティションの移動	24
5 eGuide	25
6 GroupWise Collaboration Client	27
既知の問題	27
起動スイッチを追加してリモートモードにジャンプする	27
GroupWise と他の IMAP4 アカウントのカレンダーが同期しない	27
ヘッダのみでダウンロードしたアイテムが検索で見つからない	27
IMPA4 フォルダではポスト項目がグループ項目として作成される	27
項目のユーザ名情報が正しく印刷されない	27
IMAP4 フォルダの共有がサポートされていない	27

注意事項	28
サポートされていない機能	28
[購読 / 購読取り消し] ダイアログボックスの検索フィールド	28
7 Novell iFolder 2.1.2 と Novell NetDrive 4.1	29
8 iManager	31
既知の問題	31
iManager 製品の Readme	31
ホームディレクトリの作成は Linux の機能ではない	31
Netscape または Mozilla ブラウザによる NetStorage オブジェクトのブラウズ	31
注意事項	31
ポップアップを有効にすることが必要	31
セキュリティ警告メッセージ	32
9 Linux User Management	33
既知の問題	33
Uninstall Error: NAM Is Not Deconfigured (アンインストールエラー : NAM は設定解除されていません)	33
名前変更されたオブジェクトを LUM が追跡しない	33
10 NetMail	35
既知の問題	35
NetMail コンポーネントを SP1 リビジョンにアップグレードする	35
Service Location Protocol (SLP)	35
旧バージョンの NetMail から NetMail 3.5 へのアップグレード	35
NetMail 3.5 の複数サーバへのインストール	36
インストール後に NetMail にログインできない	36
NMAP のユーザコンテキストのデフォルトはサーバコンテキスト	36
GroupWise クライアントの問題	36
iManager を使用する WebAdmin へのアクセス	36
注意事項	37
カレンダーの問題	37
NetMail NDS オブジェクト名のスペース	37
11 Novell NetStorage	39
既知の問題	39
別のユーザとしてログインする	39
Internet Explorer で一部の Web フォルダを開くことができない	39
Netscape の文字セットの問題	39
ストレージロケーションオブジェクトが必要	40
NetStorage 認証ドメインで複数のプライマリが可能	41
NetStorage と iManager は同じサーバ上になければならない	42
iManager の [File Access (ファイルアクセス)] リンクを使用して NetStorage の設定にアクセスする	42
12 リソース管理	43
既知の問題	43
サポートされる Red Carpet デーモンのバージョン	43
iManager で Resource Management にアクセスできない	43
注意事項	44
SSL の警告	44
更新時の Web ブラウザのエラー	44
Red Carpet デーモンのアカウント	44

13 Samba	45
既知の問題	45
SUSE Linux から NetWare CIFS サーバに接続中に Samba が動作しない	45
Novell Client 4.9 を使用して Samba に接続する	45
14 Virtual Office	47
既知の問題	47
電子メールの添付ファイルが表示されない	47
iChain と同時にログアウト	47
eGuide の認証に失敗する	47

本書について

本書には、Novell® Nterprise™ Linux Services (NNLS) のインストールと使用に影響を与える既知の問題および注意事項に関する情報が含まれています。

この readme の情報は、次の 2 つのカテゴリに分類されます。

- ◆ **既知の問題** : 将来のリリースで Novell が対処する予定の問題です。
- ◆ **注意事項** : 意図したとおりに動作しているが、製品を使用するときに特別な注意を必要とする場合がある機能に対してユーザに注意を促します。

インストールの計画と方法については、『*Novell Nterprise Linux Services Installation Guide*』を参照してください。

NNLS のセットアップと使用の詳細については、[Novell Nterprise Linux Services のオンラインマニュアル \(http://www.novell.com/documentation/japanese/npls\)](http://www.novell.com/documentation/japanese/npls) を参照してください。

マニュアルの表記規則

このマニュアルでは、手順内の操作およびクロスリファレンスパス内の項目を区切るために不等号記号 (>) を使用しています。

商標記号 (®、™ など) は、Novell の商標を示しています。アスタリスク (*) はサードパーティの商標を示しています。

パス名の表記に円記号 (¥) を使用するプラットフォームとスラッシュ (/) を使用するプラットフォームがありますが、このマニュアルでは円記号を使用しています。UNIX* などのようにスラッシュを使用するプラットフォームのユーザは、必要に応じて円記号をスラッシュに置き換えてください。

1

Nterprise Linux Services に関する問題と注意事項

このセクションでは、Novell® Nterprise™ Linux Services (NNLS) の全般的な問題と注意事項について説明します。このリリースには、ローカライズされたエンドユーザコンポーネントが含まれています。

コンポーネントごとの情報については、次の表を参照してください。

サービス	参照先
管理サービス	8 章 31 ページの、「iManager」 12 章 43 ページの、「リソース管理」
ファイルサービス	7 章 29 ページの、「Novell iFolder 2.1.2 と Novell NetDrive 4.1」 11 章 39 ページの、「Novell NetStorage」 13 章 45 ページの、「Samba」
アイデンティティサービス	3 章 21 ページの、「DirXML スタータパック」 5 章 25 ページの、「eGuide」 9 章 33 ページの、「Linux User Management」 4 章 23 ページの、「Novell eDirectory 8.7.3」
メッセージングサービス	6 章 27 ページの、「GroupWise Collaboration Client」 10 章 35 ページの、「NetMail」
Web 体験	14 章 47 ページの、「Virtual Office」
Web サーバ	2 章 19 ページの、「Apache Web サーバ」

最新情報の入手

Novell Nterprise Linux Services がリリースされた後で発生した問題については、Web の [Novell 技術情報データベース \(http://support.novell.com/cgi-bin/search/searchtid.cgi?/348509.htm\)](http://support.novell.com/cgi-bin/search/searchtid.cgi?/348509.htm) を参照してください。

テストについて

Novell では、2003 年 10 月 31 日までにリリースされたすべてのベンダパッチを使用して、サポートされている **Red Hat*** および **SUSE LINUX*** プラットフォームで NNLS をテストしています。

オープンソースコンポーネントのソースファイル

Novell Nterprise Linux Services のオープンソースコンポーネントのソースファイルは、次の場所からダウンロードできます。

<http://forge.novell.com/modules/xfmod/project/?npls> (<http://forge.novell.com/modules/xfmod/project/?npls>)

Linux サーバの必要要件を満たすことが必要

NNLS をインストールするには、インストール対象のサーバが『*Novell Nterprise Linux Services Installation Guide*』の「**NNLS Planning Worksheet**」に記述されているソフトウェア、ハードウェア、および構成の必要要件を満たしている必要があります。

以下のセクションで説明する点は、特に重要です。

サーバには静的な IP アドレスが必要

NNLSをインストールする前に、静的なIPアドレスをサーバに割り当てる必要があります。

/etc/hosts ファイルにサーバのエントリが必要

NNLS 製品がサーバの IP アドレスを解決できる必要があります。それには、『*Novell Nterprise Linux Services Installation Guide*』の「**Check /etc/hosts Before Installing NNLS**」に従って /etc/hosts ファイルをチェックし、場合によっては修正する必要があります。

インストール

このセクションでは、NNLS のインストールプロセスに関する既知の問題と注意事項について説明します。

既知の問題

iManager プラグインの更新

Novell Nterprise Linux Services では、Red Carpet を使用して更新を行います。Red Carpet を使用して iManager のプラグインを更新すると、プラグインファイルはファイルシステムにコピーされますが、iManager はそのプラグインファイルを使用するには設定されません。プラグインモジュールをインストールした後で、これらのモジュールを使用するように iManager を設定する必要があります。

- 1 iManager を起動して、[設定] ボタンをクリックします。
- 2 [iManager の設定] 役割で [モジュール] をクリックします。

インストールされているすべてのモジュールのリストが表示されます。

- 3 更新するモジュールを選択して、[更新] をクリックします。
- 4 Red Carpetによって新しいプラグインモジュール(*.npm ファイル)が配置されたサーバ上のディレクトリに移動します。

リモートでプラグインを更新している場合は、サーバにアクセスして *.npm ファイルをローカルコンピュータにコピーする必要があります。

Novell Nterprise Linux Services SP1 では、これらのプラグインモジュールが次の場所に配置されます。

プラグイン	デフォルトのファイルの場所
iFolder	/var/opt/novell/tomcat4/webapps/nps/packages/iFolder.npm
iPrint	/var/opt/novell/tomcat4/webapps/nps/packages/iPrint.npm
Linux User Management	/opt/novell/virtualoffice/bin/LinuxUserManagement.npm
NetMail	opt/novell/virtualoffice/bin/NetMail.npm
NetStorage	/var/opt/novell/tomcat4/webapps/nps/packages/NetStorage.npm
NetStorage Admin	/var/opt/novell/tomcat4/webapps/nps/packages/nsadmin.npm
Virtual Office	opt/novell/virtualoffice/bin/VirtualOffice.npm
Virtual Office Admin	opt/novell/virtualoffice/bin/VirtualOfficeAdmin.npm

- 5 モジュールは、一度に1つずつ選択します。
- 6 すべてのモジュールを更新したら、Tomcat を再起動します。

モジュールの更新が終了したら、/etc/init.d に移動して ./novell-tomcat4 restart を実行します。Tomcat の Java* コンポーネントが起動するまで待ちます。これで、iManager にログインして、更新されたプラグインを使用できるようになりました。

iFolder 2.1.2 をアップグレードして、ローカライズされたクライアントをサポートする

Novell Nterprise Linux Services Support Pack 1 では、iFolder 2.1.2 サーバをアップグレードして、ローカライズされた iFolder クライアントをサポートすることも、英語バージョンの iFolder クライアントをそのまま使用することもできます。サポートされる言語については、『Novell iFolder Readme』の「[Localized Versions of the iFolder Client Are Available](#) (iFolder クライアントのローカライズ版が使用可能)」を参照してください。

iFolder 2.1.2 をアップグレードして英語バージョンのクライアントを使用するには、NNLS SP1 の標準的なアップグレード手順に従います。

iFolder 2.1.2 をアップグレードしてローカライズされたバージョンの iFolder クライアントに変更するには、特別なアップグレード手順に従って NNLS SP1 で iFolder 2.1.2 をアップグレードする必要があります。詳細については、『Novell iFolder Readme』の「[Upgrading iFolder 2.1.2 to Support a Localized Client](#)」を参照してください。

iFolder の RPM を日本語またはロシア語用にアップグレードした後に Apache サービスを再起動する

Novell Nterprise Linux Services Support Pack 1 サーバのロケールが日本語 (「LANG=ja_JP」など) またはロシア語 (「LANG=ru_RU」など) に設定されている場合は、iFolder 2.1.2 の RPM をアップグレードした後で、rpm -Uvh コンソールコマンドを実行するか Red Carpet をインストールして、Apache サービスを再起動する必要があります。RPM をアップグレードすると、/etc/opt/novell/httpd/conf.d/httpd_ifolder_unix.conf ファイルのパラメータが変更されます。Apache サービス (novell-httpd) を再起動すると、変更が有効になります。

NNLS のインストールが失敗または中断した場合

インストールの情報を収集している段階であれば、<Ctrl>+<C> を押すことによりいつでもインストールを中止できます。

既存のツリーにインストールしているときにインストールが中断した場合、中断時にインストールしていた製品を再インストールできなくなります。インストールを再実行する前に、これらの製品を削除する必要があります。

再インストール前に製品を削除するには、次の手順に従います。

- 1 iManager (または ConsoleOne[®]、LDAP ブラウザなど) を使用して、インストールが中断された NNLS サーバに関連付けられているすべての Novell eDirectory[™] オブジェクトをインストール先のツリーから削除します。
- 2 アンインストールオプションを指定して NNLS インストールプログラムを実行し、製品を削除します。

ヒント: また、シェルプロンプトで /usr/sbin/nds-uninstall コマンドを実行すると、NNLS インストールプログラムを使用しなくても NNLS サーバから eDirectory を削除できます。

エラー: ユニバーサルパスワードステータスを判別できません。

このエラーは、『*Novell eDirectory 8.7.3 インストールガイド*』の「*Novell eDirectory の Linux へのインストールまたはアップグレード*」の指示通りに eDirectory をインストールしなかった場合に表示されます。

管理者のタイプフル名の指定が必要

NNLS をインストールするときは、オブジェクトタイプの省略形 (「cn=」、「ou=」、「o=」など) が含まれるタイプフル構文を使用して、管理者の完全識別名を入力する必要があります。たとえば、「cn=admin.ou=myorganization.o=mycompany」などのように入力します。

すべての製品に対してドット区切り入力を使用する

フルコンテキストを必要とするすべてのパラメータに対しては、ドット区切り構文を使用してパラメータ名を区切ることをお勧めします。カンマ (,) ではなくピリオド (.) を使用してフィールドを区切ってください。

名前の区切り文字は、各製品コンポーネントで必要になったときに NNLS インストールルーチンによってカンマに変換されます。

重要: NNLS 製品をインストールした後は、各製品のマニュアルに記されている方法に従ってください。ピリオド (.) を使用して指定する必要があるコンテキストと、カンマ (,) を使用しなければならないコンテキストがあります。

設定サーブレットを実行するときの iManager の問題

設定サーブレットの `https://host/nps/servlet/configure` を実行すると、iManager がフリーズするかメモリ不足エラーが発生します。

このエラーは、DirXML[®] を *host* コンピュータに 2 回以上インストールした場合に発生します。これにより、不正な自己参照シンボリックリンクが `/usr/lib/dirxml/rules/precfg` ディレクトリに作成されます。

この問題を解決するには、`/usr/lib/dirxml/rules/precfg` ディレクトリにある *precfg* というシンボリックリンクを削除します。

注意事項

Novell のファイルの場所

Novell のソフトウェアパッケージでは、ファイルの場所に関しては、LSB (Linux Standards Base) に従っています。Novell アプリケーションのプログラム、設定データ、可変データの保存には、次のディレクトリ構造が使用されます。

ディレクトリ	ファイルタイプ
<code>/etc/opt/novell/<package></code>	設定ファイル
<code>/opt/novell/<package></code>	プログラム、静的データ
<code>/var/opt/novell/<package></code>	可変データおよびログ
<code>/var/opt/novell/httpd/htdocs/</code>	HTTPD ドキュメントルート

インストール済みのファイルの場所については、『*Novell Nterprise Linux Services Installation Guide* (<http://www.novell.com/documentation/japanese/nls/install/data/boqgxea.html>)』を参照してください。

Red Carpet のインストールにはインターネット接続が必要

インストールプログラムで Red Carpet™ を設定するときインターネットに接続していない場合、設定に失敗し、インストールプログラムは Red Carpet がインストールできなかったことを報告します。インターネット接続を再確立した後で、Red Carpet をアンインストールしてから再インストールしてください。

インストール前に RPM 管理プログラムを停止する

インストールを実行する前に、Synaptic などのデータベースをロックする RPM 管理プログラムを停止させる必要があります。

NNLS のインストール前にサーバ時刻の同期が必要

既存の eDirectory ツリーに NNLS をインストールする場合、または同じ eDirectory ツリーを使用する複数のサーバに NNLS をインストールする場合、NNLS をインストールする前に各サーバのシステム時刻を同期させる必要があります。

Linux* で NTP サポートを設定する方法に関する情報は、Red Hat の Web サイト (<http://www.redhat.com/docs/manuals/linux>) などから入手できます。

時刻の同期やその他のプランニング作業の詳細については、『*Novell Nterprise Linux Services Installation Guide*』の「*Preparing to Install Nterprise Linux Services*」を参照してください。

NNLS のインストール前にサーバ時刻が同期していない場合

eDirectory をインストールするときにサーバ時刻が同期していないと、NNLS インストールスクリプト (アンインストールオプション) で eDirectory をアンインストールできなくなります。

このような場合は、サーバのシェルスクリプトで次のコマンドを実行する必要があります。

```
/usr/sbin/nds-uninstall
```

eDirectory をインストールするときに gettext が見つからないというエラーが発生する

eDirectory では、初期化スクリプトでメッセージを変換するために gettext を使用します。システム上に gettext がない場合、インストール時に次のエラーが発生します。

```
gettext: command not found
```

ただし、インストールは影響を受けず、正常に終了します。

また、通常は eDirectory 初期化スクリプトを実行するときに表示されるメッセージが、表示されない場合もあります。

インストール後

インストール後の既知の問題または注意事項はありません。

全般的な問題

このセクションでは、インストールを終了して初期設定を行った後で NNLS の全般的な動作に影響を与える既知の問題について説明します。

SUSE LINUX 上で NNLS のマニュアルページが機能しない

NNLS をインストールして起動した後で、SUSE LINUX コンピュータ上で NNLS のマニュアルページの大部分を正しく機能させるには、ログアウトしてからもう一度ログインする必要があります。

一部の NNLS マニュアルページでは、次の「[/opt/novell/man の NNLS マニュアルページにアクセスできない](#)」に従って MANPATH 変数をエクスポートする必要があります。

/opt/novell/man の NNLS マニュアルページにアクセスできない

一部の NNLS マニュアルページは /opt/novell/man にインストールされているため、シェルプロンプトから自動的にアクセスすることができません。

現在のシェルおよびその子プロセスでマニュアルページを表示できるようにするには、root ユーザとしてログインして、システムプロンプトで次のコマンドを実行します。

```
export MANPATH=$MANPATH:/opt/novell/man
```

「oneNet」で終わる URL を入力するとサーバの内部エラーが発生する

経験を積んだ NetWare[®] ユーザは、「oneNet」で終わる URL を入力する習慣がある場合があります。NetWare 6.5 リリースでは、このような URL を使用しません。

たとえば、Novell NetStorage は Apache Web サーバの共有インスタンスで動作するようになりました。この Novell NetStorage をサーバ上で動作している他のアプリケーションと区別するには、次のようにして、今までに使用していたアドレスに NetStorage を追加する必要があります。

- ◆ フォルダ表示の場合は、「https://IP_address/NetStorage」と入力します。
- ◆ テキスト表示の場合は、「https://IP_address/oneNet/NetStorage」と入力します。

ここで、*IP_address* は、アクセス対象の NNLS サーバの IP アドレスです。

NNLS の全サービス URL の一覧については、『*Novell Nterprise Linux Services Overview, Planning, and Implementation Guide*』の「[Quick Reference to NNLS User Services](#)」を参照してください。

全般的な注意事項

eDirectory の認証設定のデフォルトは単一サーバ

新しいツリーに最初のサーバをインストールしやすくするために、インストールスクリプトですでに入力した eDirectory の情報を、続いてインストールする各 eDirectory のパラメータのデフォルトとして使用します。

これは、NNLS を既存の eDirectory ツリーにインストールする場合にも適用されます。

サービスをインストールした後で eDirectory の認証設定を変更する必要がある場合は、『*Novell Nterprise Linux Services Overview, Planning, and Implementation Guide*』の「[Modifying Service Authentication Settings Created by the NNLS Installation](#)」を参照してください。

2

Apache Web サーバ

このセクションでは、Novell® Nterprise™ Linux Services (NNLS) 上で動作する Apache Web サーバに関する既知の問題について説明します。

既知の問題

Apache プロセスが起動しない

まれに、サーバの再起動後に Apache が正しく起動しない場合があります。iFolder や Virtual Office など他の NNLS 製品も、Apache に依存するため影響を受けます。

この問題は、Apache の `/etc/init.d/novell-httpd stop` コマンドを実行すると発生します。このコマンドを実行すると、シャットダウン前にすべてのプロセスが終了できるように 20 秒の待機時間が設定されます。

しかし、この 20 秒で終了しないプロセスがあると、`kill -9` が実行されます。Apache は、まだ動作しているプロセスを追跡するための PID ファイルを作成します。`kill -9` コマンドが実行されると通常の Apache のクリーンアッププロセスが実行されなくなるため、通常のシャットダウンでは削除される PID ファイルがディスク上に残ります。

このため、すでに実行中の値が PID ファイルに書き込まれてしまう場合があります。すると、サーバを再起動した後で読み込まれる PID ファイルには、Apache がすでに動作しているという誤った情報が含まれることになります。

この問題がサーバで発生しているかどうかを確認するには、`/var/log/boot.log` ファイルを開いて、次のテキストを検索します。

```
/etc/init.d/novell-httpd:Starting Apache:
```

```
/etc/init.d/novell-httpd:httpd (pid 1121) already running
```

この問題を解決するには、`/var/opt/novell/httpd/run/httpd.pid` ファイルを削除して、シェルプロンプトで「`/etc/init.d/novell-httpd start`」コマンドを実行します。

3

DirXML スタータパック

このセクションでは、Novell® Nterprise™ Linux Services の DirXML® スタータパックコンポーネントに関する既知の問題と注意事項について説明します。

注意事項

Novell Client 4.83 SP1 以降が必要

Windows 2000 および Windows NT 用の DirXML パスワード同期エージェントでは、Novell Client™ 4.83 SP1 以降が必要です。このクライアントは、<http://download.novell.com> (<http://download.novell.com>) から入手できます。

4

Novell eDirectory 8.7.3

このセクションでは、Novell® eDirectory™ 8.7.3 を Novell Nterprise™ Linux Services とともに使用する場合の既知の問題について説明します。Novell eDirectory 8.7.3 の詳細については、[eDirectory 8.7.3 オンラインマニュアル \(http://www.novell.com/documentation/japanese/edir873/index.html\)](http://www.novell.com/documentation/japanese/edir873/index.html) にある「[Readme \(http://www.novell.com/documentation/japanese/edir873/readme/readme.txt\)](http://www.novell.com/documentation/japanese/edir873/readme/readme.txt)」を参照してください。

NMAS の問題

NMAS™ に関する情報については、[NMAS 2.3 オンラインマニュアル \(http://www.novell.com/documentation/japanese/nmas23\)](http://www.novell.com/documentation/japanese/nmas23)にある「[セキュリティサービスの Readme \(http://www.novell.com/documentation/japanese/nmas23/readme/security_readme.html\)](http://www.novell.com/documentation/japanese/nmas23/readme/security_readme.html)」を参照してください。

Certificate Server の問題

Certificate Server に関する情報については、[Novell Certificate Server™ 2.7 のオンラインマニュアル \(http://www.novell.com/documentation/japanese/crt27\)](http://www.novell.com/documentation/japanese/crt27) にある [セキュリティサービスの Readme \(http://www.novell.com/documentation/japanese/nmas23/readme/security_readme.html\)](http://www.novell.com/documentation/japanese/nmas23/readme/security_readme.html) を参照してください。

NICI の問題

NICI に関する情報については、[NICI 2.6.x のオンラインマニュアル \(http://www.novell.com/documentation/japanese/nici20\)](http://www.novell.com/documentation/japanese/nici20)にある [セキュリティサービスの Readme \(http://www.novell.com/documentation/japanese/nmas23/readme/security_readme.html\)](http://www.novell.com/documentation/japanese/nmas23/readme/security_readme.html) を参照してください。

SLP の設定

NNLS が OpenSLP を検出すると、Novell SLP デーモンはインストールされません。SLP デーモンがインストールされているかどうかにかかわらず、NNLS をインストールしただけでは Service Location Protocol は設定されないため、正しい DA を参照するように必ず SLP を設定する必要があります。詳細については、『Novell eDirectory 8.7.3 管理ガイド』の「[OpenSLP for eDirectory の設定](#)」を参照してください。SLP を正しく設定しないと、問題が起きます。たとえば、サーバは新しいツリー名として使用する名前が使用されていないかどうかをチェックする必要があるため、ツリーの名前変更を正しく行うことができなくなります。

Novell eDirectory ツリーのマージ

2つの NNLS ツリーをマージするときに次のエラーが表示される場合があります。

“The source tree root partition cannot do a merge right now due to DS: ERR_PARTITION_BUSY. Either wait for the operation to complete, or try to fix it with DSREPAIR tool. And then run this operation again.(DS: ERR_PARTITION_BUSYにより、ソースツリーのルートパーティションは現在マージを実行することができません。操作が完了するのを待つか、DSREPAIR ツールを使って修正した後、もう一度この操作を実行してください。)

ソースツリーパーティションのマージの準備中にエラーが発生しました。

マージに失敗しました。”

このエラーを解決するには、次のいずれかを実行します。

- ◆ ソースツリーサーバで eDirectory が参照チェックおよびパージャ操作を実行するのを待ちます。
- ◆ iMonitor でエージェントトリガを使用して、参照チェックおよびパージャプロセスを開始します。

ほとんどの場合、この時点でマージは完了します。

詳細については、『Novell eDirectory 8.7.3 管理ガイド』の「[Novell eDirectory ツリーのマージ](#)」を参照してください。

iManager でのユーザオブジェクトの作成とパーティションの移動

iManager でユーザオブジェクトを作成したりパーティションを移動しているときに、次のエラーが発生する場合があります。

“(Error -601) The object name entered could not be found in the context specified.((エラー-601) 入力したオブジェクト名は、指定したコンテキスト内で見つかりませんでした。)”

このメッセージは作成が完了していないことを意味していますが、ほとんどの場合、操作は正常に完了しています。このエラーの原因として考えられるのは、作成操作と作成後の検証操作が同じレプリカからサービスを受けていないことです。つまり、レプリカ A にユーザが作成され、レプリカ B がただちに照会されています。この場合、レプリカ B には変更が伝えられていないため、-601 エラーが発生します。

他の作業を行う前に、作成または移動を検証することをお勧めします。

5 eGuide

Novell® eGuide 2.1.2の問題については、Novell eGuideのオンラインマニュアルにある [Readme \(http://www.novell.com/documentation/japanese/eguide212/readme/eguide_readme212.html\)](http://www.novell.com/documentation/japanese/eguide212/readme/eguide_readme212.html)」を参照してください。

6

GroupWise Collaboration Client

このセクションでは、Novell® Nterprise™ Linux Services (NNLS)のGroupWise® Collaboration Client コンポーネントに関する既知の問題と注意事項について説明します。

既知の問題

起動スイッチを追加してリモートモードにジャンプする

GroupWise Collaboration Client は、リモートモードでのみで動作します。デスクトップのショートカットをダブルクリックするとクライアントがリモートモードで開くようにするには、デスクトップのショートカットの[リンク先]フィールドに「/pr-path_to_remote_mailbox」という起動スイッチを追加する必要があります。この設定を行わない場合は、クライアントを起動するたびにリモートメールボックスのパスを選択する必要があります。

ショートカットを作成する方法については、『[Novell Nterprise Linux Services Lab Guide \(http://www.novell.com/documentation/japanese/nls/index.html?page=/documentation/japanese/nls/labguide/data/front.html#bktitle\)](http://www.novell.com/documentation/japanese/nls/index.html?page=/documentation/japanese/nls/labguide/data/front.html#bktitle)』を参照してください。

GroupWise と他の IMAP4 アカウントのカレンダーが同期しない

GroupWise と他の IMAP4 アカウント (NetMail™ など) の間でカレンダーエントリ (アポイントなど) は同期しないため、カレンダー情報を表示できるのはその情報を入力したアカウント内のみです。

ヘッダのみでダウンロードしたアイテムが検索で見つからない

ヘッダのみでダウンロードしたアイテムは、[検索] で検索されず、[検索結果] に表示されません。

IMPA4 フォルダではポスト項目がグループ項目として作成される

IMPA4 アカウントフォルダで作成したポスト項目 (アポイント、タスク、メモ、メールメッセージ) は、ポスト項目としてではなくグループ項目として表示されます。

項目のユーザ名情報が正しく印刷されない

IMAP4 フォルダの項目を印刷すると、ユーザ名ではなく「\$\$\$」がヘッダに出力されます。

IMAP4 フォルダの共有がサポートされていない

IMAP4 サーバ外のユーザと IMAP4 フォルダを共有するオプションは選択できますが、機能しません。

注意事項

サポートされていない機能

通常、このクライアントは GroupWise バックエンドではなく NetMail バックエンドに対して実行するため、ユーザインタフェースの一部の機能がサポートされていません。このクライアントを GroupWise バックエンドに対して実行しない場合、次の GroupWise の機能はサポートされません。

- ◆ ドキュメント管理
- ◆ GroupWise クライアントルール(ただし、NetMail で設定した NetMail ルールはサポートされます)
- ◆ GroupWise Messenger
- ◆ ジャンクメール処理
- ◆ 通知
- ◆ オンラインモードとキャッシングモード
- ◆ プロキシ
- ◆ 件名を隠す
- ◆ 回覧板
- ◆ 共有アドレス帳
- ◆ ステータストラッキング

[購読 / 購読取り消し] ダイアログボックスの検索フィールド

[購読 / 購読取り消し] ダイアログボックスの検索フィールドでは、大文字と小文字が区別されます。

7

Novell iFolder 2.1.2 と Novell NetDrive 4.1

Novell® iFolder® 2.1 の問題については、Novell iFolder のオンラインマニュアル (<http://www.novell.com/documentation/japanese/ifolder21/index.html>) にある Readme を参照してください。

Novell NetDrive 4.1 の問題については、Novell iFolder のオンラインマニュアル (<http://www.novell.com/documentation/japanese/ifolder21/index.html>) にある Readme を参照してください。

8

iManager

このセクションでは、Novell® Nterprise™ Linux Services (NNLS) の iManager コンポーネントに関する既知の問題と注意事項について説明します。

既知の問題

iManager 製品の Readme

Novell iManager の問題については、Novell iManager のマニュアルにある「[Readme \(http://www.novell.com/documentation/japanese/imanager20\)](http://www.novell.com/documentation/japanese/imanager20)」を参照してください。

ホームディレクトリの作成は Linux の機能ではない

iManager でユーザを作成するときに [ホームディレクトリの作成] オプションを選択しても、NNLS サーバ上にはホームディレクトリが作成されません。これは、このオプションが NetWare® ボリュームのみに適用されるためです。

ただし、ホームディレクトリは、Linux User Management (LUM) ユーザが初めて NNLS サーバにログインするときに自動的に作成されます。

Netscape または Mozilla ブラウザによる NetStorage オブジェクトのブラウズ

Netscape* または Mozilla ブラウザを使用している場合に [Storage Location: Create/Modify List (ストレージロケーション: リストを作成 / 変更)] サブメニューでロケーションオブジェクトをブラウズしようとする、選択したオブジェクトがストレージロケーションオブジェクトに表示されません。このオブジェクトは選択できますが、表示されません。一時的な対策としては、別のブラウザを使用するか、表示されなくてもオブジェクトが選択されることを認識して Netscape または Mozilla ブラウザを使用します。

注意事項

ポップアップを有効にすることが必要

iManager のウィザードとヘルプを動作させるには、iManager を使用するとき Web ブラウザでポップアップウィンドウを有効にする必要があります。ポップアップウィンドウをブロックするアプリケーションを使用する場合、iManager の使用中はポップアップウィンドウをブロックする機能を無効にする必要があります。

Mozilla ブラウザを使用してサーバを管理する場合は、ブラウザタイプ別の手順を終了してポップアップウィンドウを有効にする必要があります。

Mozilla Web ブラウザ

Mozilla 1.4 以降の Web ブラウザでポップアップウィンドウを有効にするには、次の手順に従います。

- 1 Mozilla Web ブラウザを開きます。
- 2 [編集] > [設定] の順にクリックします。
[設定] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [カテゴリ] ナビゲータで、[プライバシーとセキュリティ] > [ポップアップウィンドウ] の順にクリックします。
- 4 [要求していないポップアップウィンドウを抑制する] チェックボックスをオフにします。
- 5 [OK] をクリックします。

Mozilla Firebird ブラウザ

Mozilla Firebird 0.6.1 以降の Web ブラウザでポップアップウィンドウを有効にするには、次の手順に従います。

- 1 Mozilla Firebird Web ブラウザを開きます。
- 2 [ツール] > [設定] の順にクリックします。
[設定] ダイアログボックスが開きます。
- 3 左のナビゲータで、[Web 機能] をクリックします。
- 4 [ポップアップウィンドウを禁止する] チェックボックスをオフにします。
- 5 [OK] をクリックします。

セキュリティ警告メッセージ

iManager にアクセスしたり、一部の iManager プラグインを使用すると、証明書が信頼できないというセキュリティ警告がブラウザに表示されます。これは、Apache Web サーバが、NNLS をインストールすることにより作成される自己署名証明書を使用しているためです。このメッセージは、情報を提供するためのものです。iManager での処理の続行を選択し、証明書を表示して永続的に信頼できる証明書としてブラウザの証明書ストアにインストールすることも、証明書を信頼しないように設定することもできます。後者の場合は、iManager を使用できなくなります。また、信頼できる証明書がある場合は、その証明書を使用するように Apache を設定することもできます。セキュリティを向上させるため、自己署名証明書を長期間使用しないようにすることをお勧めします。

信頼できる証明書を使用するように Apache を設定する方法については、[Apache の Web サイト \(http://httpd.apache.org/docs-2.0\)](http://httpd.apache.org/docs-2.0)にある Apache のマニュアルを参照してください。

9

Linux User Management

このセクションでは、Novell® Nterprise™ Linux Services (NNLS) の Linux User Management コンポーネントに関する既知の問題について説明します。

既知の問題

Uninstall Error: NAM Is Not Deconfigured (アンインストールエラー : NAM は設定解除されていません)

Linux User Management (LUM) をアンインストールするときにこのエラーが表示される場合は、次の手順に従います。

- 1 /etc/nam.conf ファイルを削除します。
- 2 install.sh をもう一度実行して、Linux User Management をアンインストールします。
- 3 (状況に応じて実行) 目的の eDirectory ツリーが削除されない場合は、iManager を起動して、NNLS サーバに関連付けられている UNIX ワークステーションオブジェクトを削除します。

名前変更されたオブジェクトを LUM が追跡しない

Linux User Management は、/etc/nam.conf ファイルを使用して UNIX Config オブジェクトがある場所を追跡します。デフォルトでは、これはインストール時に指定した Organization オブジェクトです。

UNIX Config オブジェクトのコンテキストを定義するコンテナオブジェクトのいずれかの名前を変更した場合、変更は設定ファイルには反映されないため、Linux User Management の動作が停止します。

この問題を解決するには、次の手順に従います。

- 1 vi などの標準的な UNIX ASCII エディタで /etc/nam.conf を開きます。
- 2 「base-name=」 で始まる行を探します。
- 3 名前変更されたオブジェクトが反映されるようにディレクトリコンテキストを修正します。

たとえば、「novell」という名前の Organizational Unit オブジェクト内にある「test」という名前の Organization Unit オブジェクト内に UNIX Config オブジェクトを配置した場合は、「base-name=ou=test,o=novell」というようにカンマ区切り構文を使用して base-name の値を指定します。

- 4** ファイルを保存します。
- 5** 次のコマンドを実行して LUM を再起動します。

```
/etc/init.d/namcd stop  
/etc/init.d/namcd start
```

10 NetMail

このセクションでは、Novell® Nterprise™ Linux Services (NNLS) の NetMail™ コンポーネントに関する既知の問題と注意事項について説明します。

既知の問題

NetMail コンポーネントを SP1 リビジョンにアップグレードする

NetMail コンポーネントを SP1 リビジョンにアップグレードすると、メッセージングサーバが自動的に再起動します。まれに、自動的に再起動した後でメッセージングサーバが非常に低速になったり停止したり場合があります。これが発生した場合は、root ユーザとしてシェルプロンプトで次のコマンドを実行すると回復できます。

次のコマンドを実行して NetMail を停止します。

```
/etc/init.d/novell-netmail stop
```

その後、次のコマンドを実行して NetMail を再起動します。

```
/etc/init.d/novell-netmail start
```

Service Location Protocol (SLP)

NetMail の RPM は、NDSslp に依存しています。ネットワーク上で OpenSLP をインストールして設定した場合、NDSslp は必要ありませんが、NetMail の RPM で必要になります。

このような状況を回避するには、次の例のように `nodeps` オプションを指定して NetMail の RPM を手動でインストールします。

```
rpm -F novell-netmail-3.5-version.release.i386.rpm --nodeps
```

旧バージョンの NetMail から NetMail 3.5 へのアップグレード

既存の NetMail システムを使用している場合、NNLS のインストール時に NetMail 3.5 をインストールしないでください。既存の NetMail システムを NetMail 3.5 にアップグレードする方法については、『*NetMail 3.5 Administration Guide*』の「[Upgrading to NetMail 3.5](#)」を参照してください。

NetMail 3.5 の複数サーバへのインストール

複数のサーバに NetMail 3.5 をインストールする場合、ツリー内の 1 番目のサーバへのインストールには、必ず NNLS のインストールを使用してください。ツリー内の 2 番目以降のサーバに NetMail 3.5 をインストールする方法については、『*NetMail 3.5 Administration Guide*』の「[Installing NetMail 3.5 on Multiple Servers](#)」を参照してください。

インストール後に NetMail にログインできない

新規インストールの後にサーバまたは NetMail を再起動しないと、WebAccess または WebMail にユーザがログインできない場合があります。

これを解決するには、次のコマンドを実行して NetMail を停止します。

```
/etc/init.d/novell-netmail stop
```

その後、次のコマンドを実行して NetMail を再起動します。

```
/etc/init.d/novell-netmail start
```

NMAP のユーザコンテキストのデフォルトはサーバコンテキスト

インストール中は、NMAP エージェントのユーザコンテキストのデフォルトは、メッセージングサーバに関連付けられている NCP™ サーバオブジェクトと同じコンテキストになります。インストールが完了すると、NMAP エージェントのユーザコンテキストは、WebAdmin を使用して変更できます。

重要: NMAP エージェントに対してコンテキストを追加、変更、または削除した場合、メッセージングサーバを再起動しないと変更は反映されません。

GroupWise クライアントの問題

NetMail サーバと GroupWise® クライアントの間ではユーザカレンダーは同期されません。このため、GroupWise クライアントでアポイントを受け付けたユーザに対してビジーサーチを実行しても、ユーザの受け付けたアポイントは戻されません。


iManager を使用する WebAdmin へのアクセス

iManager を使用してリモートコンピュータから WebAdmin にアクセスするときに、WebAdmin 設定オブジェクトで IP アドレスの設定が誤っていると、ホストが見つからない場合があります。

これは、WebAdmin のインストール時にサーバの IP アドレスを *ncp server name* Web 管理オブジェクト (*ncp server name* はサーバの名前) に保存しようとするときに発生します。IP アドレスを正しく解決できない場合、アドレスはデフォルトの 127.0.0.1 になります。

注: デフォルトでは、WebAdmin は iManager サーバにインストールされます。

これを解決するには、iManager で次の手順に従います。

1 iManager のツールバーにある [オブジェクトの表示] ボタン () をクリックします。

2 [オブジェクト] 表示で、Web 管理サーバオブジェクトを選択します。

オブジェクトの名前は *server_name* Web 管理サーバです。

- 3 [タスク] リストから [オブジェクトの変更] を選択します。
設定ウィンドウにオブジェクトの属性が表示されます。
- 4 WebAdminAddress 属性を選択して [編集] をクリックします。
- 5 WebAdminAddress 属性の IP アドレスを WebAdmin サーバのアドレスに変更します。
重要: 複数のプロパティページで属性を変更する場合は、各ページで [適用] をクリックして変更を保存する必要があります。
- 6 終了したら、[OK] をクリックします。

注意事項

カレンダーの問題

カレンダー項目 (アポイント、タスク、メモ) を指定するときは、必ず受信者のログイン名と正式なドメイン名 (たとえば user_login_id@domain_name) を使用します。こうすることにより、送信者はステータス情報を受信できます。ユーザの別名またはホストドメインを使用してカレンダー項目を指定すると、カレンダー項目を受諾または拒否した受信者が表示されません。

NetMail NDS オブジェクト名のスペース

RFC 2821 で定義されている SMTP 規格に準拠するために、リソース、ユーザ、グループ、および職種の名前にスペースを使用することはできません。Modular Web クライアント、WebAccess および WebAdmin では、スペースはアドレス間の区切り文字として扱われます。他の電子メールクライアントでは、スペースは区切り文字として扱われるか、削除されます。

11

Novell NetStorage

このセクションでは、Novell® NetStorage を Novell Nterprise™ Linux Services とともに使用する場合の既知の問題について説明します。

既知の問題

別のユーザとしてログインする

Windows* 98 と Internet Explorer を使用しているときに Novell NetStorage にログインした後で別のユーザとしてもう一度ログインする場合、Internet Explorer の cookie を削除して Windows 98 からログアウトする必要があります。そうしないと、ログインできなくなります。これは、Windows 98 がユーザ情報を保持するために、ユーザ固有の NetStorage cookie が作成されるためです。

Windows 2000 と Microsoft* Web Folders を使用している場合は、[別のプロセスでフォルダ ウィンドウを開く] オプションを有効にする必要があります。

- 1 [マイ コンピュータ] をダブルクリックして、[ツール] > [フォルダ オプション] > [表示] の順にクリックします。
- 2 [別のプロセスでフォルダ ウィンドウを開く] チェックボックスをオンにします。

すべてのバージョンの Windows と Internet Explorer でユーザ名とパスワードを要求するプロンプトを表示するように Internet Explorer を設定するには、次の手順に従います。

- 1 [ツール] > [インターネット オプション] > [セキュリティ] > [レベルのカスタマイズ] の順にクリックします。
- 2 [ユーザ認証] セクションで [ユーザ名とパスワードを入力してログオンする] をクリックしてから [OK] を 2 回クリックします。

Internet Explorer で一部の Web フォルダを開くことができない

NetStorage とともに Microsoft Web Folders を使用して新しいフォルダを作成すると、Internet Explorer を使用してそのフォルダを開くことができない場合があります。

Netscape の文字セットの問題

Netscape ブラウザを使用して NetStorage を開くと、一部の文字の代わりに四角が表示される場合があります。これを解決するには、[表示] > [文字セット] > [Unicode (UTF-8)] の順にクリックしてから、[表示] > [文字セット] > [デフォルトの文字セットに設定] の順にクリックします。

ストレージロケーションオブジェクトが必要

NetStorage のインストール後に、NetStorage を使用している Linux* サーバ上でローカル共有ディレクトリと iFolder ディレクトリしか表示されない場合があります。ローカル共有ディレクトリには、NetStorage に特有な詳細情報が記載されている Readme ファイルが含まれています。

Linux サーバおよび NetWare サーバ上にあるファイルとディレクトリにアクセスするには、ストレージロケーションオブジェクトが必要です。ネットワーク上にあるファイルとフォルダに対する Novell eDirectory™ 権を持つユーザでも、ストレージロケーションオブジェクトを作成しない限り、NetStorage を使用してこれらのファイルとフォルダにアクセスすることはできません。

Linux サーバ上のフォルダを参照するストレージロケーションオブジェクトについては、対応する Samba の設定でファイルシステムの権利を設定する必要があります。

ストレージロケーションオブジェクトを作成するには、次の手順に従います。

- 1 ブラウザ(Internet Explorer 5以降、Mozillaなど)を開いて、iManagerのURLを指定します。
URLは「`http://server_ip_address/nps/iManager.html`」です。`server_ip_address`を、NetStorage が動作している Linux サーバの IP アドレスまたは DNS 名、または Apache ベースサービスの IP アドレスで置き換えます。
- 2 ユーザ名とパスワードを入力します。
- 3 左のカラムで、[File Access (ファイルアクセス)]をクリックしてから [Storage Location: Create (ストレージロケーション: 作成)] をクリックします。
- 4 オブジェクト名、表示名、ディレクトリの場所、コンテキスト、およびコメント (オプション) を指定します。
 - ◆ オブジェクト名は、eDirectory ツリー内のオブジェクトの名前です。
 - ◆ 表示名は、NetStorage のディレクトリアクセスリストに表示する名前です。これはショートカット名で、ユーザに対して表示されます。複数のストレージオブジェクトについて同じ表示名を指定すると、それぞれの名前が一意になるように、名前に数字が追加されます。
 - ◆ ディレクトリの場所は、ファイルシステム上のディレクトリの場所です。これは、ファイルシステムタイプ、サーバ名、ボリューム、およびディレクトリパスが含まれる URL です。

アクセス対象のストレージが NetWare サーバ上にある場合、URL は次の形式である必要があります。

```
ncp://server_name/volume/path_to_directory
```

たとえば、次のようにします。

```
ncp://server1.digitalair.com/mktg/reports
```

または

```
ncp://111.222.3.4/mktg/reports
```

アクセス対象のストレージが Linux サーバ上にある場合、URL は次の形式である必要があります。

```
cifs://server_name/cifs_share_name
```

プロトコルを省略すると、NetWare® Core Protocol™ (NCP™) システムであると見なされます。

- ◆ コンテキストは、ストレージロケーションオブジェクトがあるディレクトリコンテキストです。コンテキストを選択するには、オブジェクトセレクタをクリックします。
- ◆ コメントは管理者が記入し、ユーザに対しては表示されません。

5 [作成] をクリックしてから [OK] をクリックします。

ストレージロケーションオブジェクトを作成したら、特定のユーザ、グループ、プロファイル、またはコンテナオブジェクトに対して使用できるストレージロケーションオブジェクトのリストを作成する必要があります。オブジェクトに関連付けられているディレクトリがユーザに対して表示されるのは、ユーザが次にログインしたときです。このリストを作成した後で変更するには、同じウィンドウで新しいストレージロケーションオブジェクトをリストに追加するか、リストからストレージロケーションオブジェクトを削除します。

1 ブラウザ(Internet Explorer 5以降、Mozillaなど)を開いて、iManagerのURLを指定します。

URLは「http://server_ip_address/nps/iManager.html」です。*server_ip_address*を、NetStorageが動作しているLinuxサーバのIPアドレスまたはDNS名、またはApacheベースサービスのIPアドレスで置き換えます。

2 ユーザ名とパスワードを入力します。

3 左のカラムで、[File Access (ファイルアクセス)]をクリックしてから[Storage Location: Create (ストレージロケーション: 作成)] をクリックします。

4 [オブジェクトセレクタ] ボタンをクリックし、リストを作成するユーザ、グループ、プロファイル、またはコンテナオブジェクトを選択して、[OK] をクリックします。

5 [オブジェクトセレクタ] ボタンをクリックし、このリストに含めるストレージロケーションオブジェクトを選択して、[OK] をクリックします。

[オブジェクトセレクタ] ウィンドウでは、複数のストレージロケーションオブジェクトを選択できます。複数のストレージロケーションオブジェクトを選択すると、そのオブジェクトは [選択したオブジェクト] リストに表示されます。すでにストレージロケーションオブジェクトがリストに含まれている場合にオブジェクトを追加するときは、元のオブジェクトがリストに含まれていることを確認してから [OK] をクリックしてください。

既存のストレージロケーションを削除するには、リストから名前を削除してから [OK] をクリックします。

6 リストの作成または削除が終了したら、[OK] をクリックします。

NetStorage とストレージロケーションオブジェクトの詳細については、『[NetStorage Administration Guide](#)』を参照してください。

NetStorage 認証ドメインで複数のプライマリが可能

iManager の [Authentication Domain (認証ドメイン)] サブメニューには、プライマリドメインを1つ表示することになっています。プライマリになっているドメインが複数ある場合は、プライマリドメインが1つだけ表示されるまで、プライマリにするドメインの [Make Primary (プライマリにする)] ボタンをクリックします。

NetStorage と iManager は同じサーバ上になければならない

iManager を使用して NetStorage を管理するには、iManager を NetStorage と同じサーバにインストールする必要があります。

iManager を NetStorage と同じサーバ上にインストールしないと、NetStorage は管理できません。NetStorage がインストールされている各サーバに iManager をインストールし、NetStorage を変更するときはそのサーバの IP アドレスまたは URL を参照するようにブラウザを設定する必要があります。

iManager の [File Access (ファイルアクセス)] リンクを使用して NetStorage の設定にアクセスする

NetStorage の設定の変更とストレージロケーションオブジェクトの作成を行う iManager のリンクは、[NetStorage Administration (NetStorage 管理)] から [File Access (ファイルアクセス)] に変更されました。

12 リソース管理

このセクションでは、Novell Nterprise™ Linux Services に含まれている Novell® Resource Management コンポーネントに関する既知の問題と注意事項について説明します。

既知の問題

サポートされる Red Carpet デーモンのバージョン

Resource Management スナップインは、バージョン 2 以降の Red Carpet™ デーモンはサポートしていません。


iManager で Resource Management にアクセスできない

iManager の Resource Management プラグインは WebAdmin に接続します。iManager を使用してリモートコンピュータから WebAdmin にアクセスするときに、WebAdmin 設定オブジェクトで IP アドレスの設定が誤っていると、ホストが見つからない場合があります。

これは、WebAdmin のインストール時にサーバの IP アドレスを *ncp server name* Web 管理オブジェクト (*ncp server name* はサーバの名前) に保存しようとするときに発生します。IP アドレスを正しく解決できない場合、アドレスはデフォルトの 127.0.0.1 になります。

注: デフォルトでは、WebAdmin は iManager サーバにインストールされます。

これを解決するには、iManager で次の手順に従います。

- 1 iManager のツールバーにある [オブジェクトの表示] ボタン () をクリックします。
- 2 [オブジェクト] 表示で、Web 管理サーバオブジェクトを選択します。
注: オブジェクトの名前は *server_name* Web 管理サーバです。
- 3 [タスク] リストから [オブジェクトの変更] を選択します。
設定ウィンドウにオブジェクトの属性が表示されます。
- 4 WebAdminAddress 属性を選択して [編集] をクリックします。
- 5 WebAdminAddress 属性の IP アドレスを WebAdmin サーバのアドレスに変更します。
重要: 複数のタブで属性を変更する場合は、各ページで [適用] をクリックして変更を保存する必要があります。
- 6 終了したら、[OK] をクリックします。

注意事項

SSL の警告

iManager の Resource Management スナップインを使用する場合、初めて iManager にログインするときとリソース管理作業を実行しようとするときに、SSL の警告が表示されます。Internet Explorer で IP アドレスを指定して iManager サーバにアクセスする場合は、さらにセキュリティ警告が表示されます。これらの警告が表示されないようにするには、IP アドレスではなく DNS 名を使用します。

更新時の Web ブラウザのエラー

Resource Management スナップインで使用するコンポーネントを更新するときに、Web ブラウザがエラーを戻す場合があります。これが発生した場合、Red Carpet はインストールプロセスを続行しますが、進捗状況は更新されません。更新時にエラーが発生する可能性があるコンポーネントには、次のようなものがあります。

- ◆ Apache
- ◆ eDirectory™
- ◆ Tomcat
- ◆ iManager
- ◆ WebAdmin

Red Carpet デーモンのアカウント

サーバの NCP™ オブジェクトを使用できない場合 (現在ログインしているツリーとは異なるツリーにサーバがある場合) に NNLS サーバを管理するには、Red Carpet デーモンのアカウントが必要です。

Red Carpet デーモンのアカウントを作成するには、リモートサーバで次の手順に従います。

注: リモートサーバが NCP オブジェクトで、novell-nrm-rcd-link パッケージがインストールされている場合、この作業は必要ありません。

- 1 root でログインします。
- 2 「rug ua」と入力します。
- 3 ユーザ名とパスワードを指定します。
- 4 このアカウントが Red Carpet デーモンに完全にアクセスできるようにするために、「+superuser」と入力します。

13 Samba

このセクションでは、Novell® Nterprise™ Linux Services (NLS) の Samba コンポーネントに関する既知の問題について説明します。

既知の問題

SUSE Linux から NetWare CIFS サーバに接続中に Samba が動作しない

すべての更新を適用した SUSE LINUX Enterprise Server 8 で、Samba を使用して CIFS を実行している NetWare® サーバに接続すると、ファイルコピーエラーが発生します。この場合、マウントには成功しますが、CIFS 共有ファイルシステムから Linux ファイルシステムにファイルをコピーしようとする、サイズが 0

14 Virtual Office

このセクションでは、Novell® Nterprise™ Linux Services (NNLS) の Virtual Office コンポーネントに関する既知の問題について説明します。

既知の問題

電子メールの添付ファイルが表示されない

GroupWise® IMAP プロバイダに接続された IMAP を使用するように電子メールサービスを設定すると、添付ファイルが機能しない場合があります。

iChain と同時にログアウト

Virtual Office を iChain® から同時にログアウトさせるには、iChain アクセラレータで [Forward Authentication Information to Web Server (認証情報を Web サーバに転送)] オプションを有効にするか、[Allow Authentication through HTTP Authorization (HTTP 認証による認証を許可)] と [Use Basic/Proxy Authentication (ベーシック/プロキシ認証を使用)] を有効にして LDAP プロファイルを使用するか、認証ヘッダにユーザ証明書を含めるように設定した OLAC を使用する必要があります。

eGuide の認証に失敗する

eGuide サービスでは、SSL を介するとリモートサーバは認証されません。Virtual Office のホームページには、「Error: Authentication failed: improper configuration. Please contact your administrator. (エラー: 不適切な設定のために認証に失敗しました。管理者に連絡してください。)」というエラーメッセージが表示されます。さらに、[高度な検索] ボタンと [リンク] ボタンで証明書が要求されます。このエラーを解決するには、Virtual Office を使用するサーバ上の JVM* にルート認証局証明書をインポートします。証明書をインポートする方法については、『eGuide 2.1.2 Administration Guide』の「**Step Six: Import the Trusted Root Certificate**」を参照してください。

